



五林 77

お幣向年々いづれも
 為國の家あるを身
 におのづかの世に物々世
 人頻りに海海屋目
 抑々いふは親を以て
 憫笑すべし一筆致
 今今の時を申す
 斯る浅きの本を
 國の家あるを身
 如何と云ふ事
 毎々いふ日本

人雖りも徳海屋自

抑らるるは親を以て

憫笑すべしと云致

ふ今の時か申つて

斯る淺きの本を

國の家を以ての

如何と云ふ類に

ありて海を以て自

まそ心の中を以て

しるすに

十七日

直彬

大隈は先碇也